

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800238		
法人名	医療法人輝栄会		
事業所名	グループホーム トリニテ松崎		
所在地	福岡県福岡市東区松崎2丁目7-21		
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyoSyCd=4090800238-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成28年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前には公園があり、また近くには多々良川遊歩道もあり、日和の良い日には散歩に出かけております。またJR千早駅からも車で5分程の位置にあり、利便性に富んでおります。母体が医療法人ということもあり、医療面でのサポートも充実しており、緊急時の対応も万全です。更に小規模多機能とサービス付き高齢者住宅併設の複合型施設という事もあり、小規模多機能をご利用しながら、更に介助が必要になればグループホームへの入所を検討するという方もたくさんいらっしゃり、そのことがご本人様にもご家族様にも将来の安心へ繋がっている様です。今後は看取りの体制もしっかりと整え、医師や看護師と協力関係も築き、心豊かな最期を迎えられるよう職員の教育を進めていきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、都市高速のインターチェンジやバス停、JRの駅などがある都市部に位置しながら、近くには公園や多々良川もあり、豊かな自然の恵みも享受することが出来る場所に立地しています。建物は3階建ての鉄筋コンクリート造りで、二階が2ユニットのグループホームとなっています。他フロアは同法人が運営する事業所やサービス付き高齢者住宅になっており、災害時の連携や設備・機器の共用など協力的体制も整っています。

近隣住人との関係も良好で、地域のお祭りや行事への参加、自治会での話し合い、ボランティア活動などに積極的に参加し、地域に貢献できるよう取り組まれています。また、職員のネットワークも利用し、地域や学校関係などとの交流の輪も広がられています。

ホームでは、日常的な外出支援と共に食を楽しむ支援にも力を入れており、利用者と一緒に料理を楽しむ機会も設けられています。お花見用のお弁当として、いなり寿司や唐揚げを料理したり、おやつに綿菓子やワッフルを作ったりと、利用者のリクエストを取り入れながらメニューが決められており、利用者が喜んで参加されている姿も見られます。

利用者の安心で快適な暮らしの継続を第一に、新しいことにもチャレンジしていきたいといった思いを抱かれている管理者のもと、職員も様々なアイデアを出しながら意欲的にサービス向上に取り組まれています。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及びトリテ独自の理念をフロアと事務所内に掲示し、毎朝の申し送り時にスタッフ皆で唱和し、理念の共有と実現に取り組んでいる。 "三位一体"の実現の為地域行事への参加等を通し、施設全体と地域の結びつきを密にしようと、日々取り組んでおります。	毎日理念を復唱することで、ホームの姿勢や利用者及び地域との関わり方などの確認を行い、職員全員が理念に沿ったサービスを提供出来るように努められています。職員の入職の際には、研修の中で法人とホームの理念に込められた想いや意味をしっかりと理解してもらえるように取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月毎の運営推進会議には必ず松崎2丁目自治会長様及び民生委員様へ参加を依頼し、情報共有を図っております。また夏祭りや清掃活動の参加、トリテでのバザーや作品展示会を通し、地域の方との交流と施設の開放を図っております。日常の事では、晴れた日にはご利用者様とエントランスへ出て、前を通って下校する子ども達へ挨拶活動を行っております。	地域の祭りには屋台を出店するなど、様々な活動を通して地域に協力できるように図られています。また、地域の催しに招待され、近隣住民とふれあう機会も設けられており、中学生の職業体験の受け入れなども行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方々へ現場で起こった事故・ヒヤリへの対応事例を紹介し、また日常活動の報告等を通して、認知症の方の支援方法を発信しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様からご意見ご要望を賜り、また自治会長様や民生委員様、他事業所の方と情報交換を行うことで、事業所としての今後の取り組み方について考える良い時間となっている。	二ヶ月に一度、家族代表・地域住民・行政担当者等の参加による運営推進会議が開催されています。また、法人内・外の様々なサービス事業所の管理者等の参加も見られ、事故等の対応などに対する助言などが得られており、参加者の意見や提案が運営に生かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの管理者様や社会福祉協議会の担当者様に必ずご参加いただき、トリテの現状をお伝えしご助言頂いております。また、市の研修には積極的に参加するようにしております。	運営推進会議の機会を利用して困ったことや解からない点などについて相談されています。市の担当者とも円滑な関係ができており、事業所の報告を行ったり、行政からの連絡事項を受けとったりと相互に連絡できる関係が築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに則し、現在身体拘束は行っておりません。また施設内研修を通して身体拘束廃止を職員に周知徹底しております。事故防止及び身体拘束廃止委員会は毎月1回行っており、施設内の身体拘束事例について把握、事例検討も行っております。	ホームでは、基本的に身体拘束は行わない方針が掲げられており、利用者にも多動や不穏な言動が見られる際には、適切な言葉かけなどを行うことで解決を図るように努められています。法人内に身体拘束廃止委員会が設置されており、その記録を職員に回覧することでの情報の共有化も図られています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は職員1名を県主催の高齢者の権利擁護に関する研修に派遣、受講後ユニット内で伝達講習会を行うなど、高齢者の虐待防止、権利の擁護について職員の知識と意識の向上に努めました。			
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、日常生活支援事業や成年後見制度を利用されているご利用者様がおりますので、管理者はもちろん職員全員が実体験を以て周知しております。あんしんサポートの担当者様とも2か月に1回の面談を通して事業の実情などの情報交換も出ております。	権利擁護に関する制度を利用されている利用者が数名おられ、制度内容に関して理解されています。また、成年後見制度の活用の際に、家族からの相談により申請に携わられた経験も持たれています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にかかる費用や毎月の請求については料金表を用いて具体的に説明をし、また医療費受診代なども項目を設けて分かり易く提示させていただいております。これまで契約や解約に伴うクレーム等は発生しておりません。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とのコミュニケーションを密にとるよう職員には常に呼びかけております。またご家族様より頂いた声は業務日報に記録として残し、申し送り時に口頭で伝達するようにしており、皆が共有できる様に努めています。	職員は運営推進会議や面会時などに家族が話やすい雰囲気づくりを心がけられています。また、外出レクリエーションや室内イベントなど、家族を招待する機会などでも要望などの意見を伺うよう努められています。	職員の異動や退職などの情報が家族に伝わっていないケースがあるようです。家族からの意見などが得られやすい環境づくりの一つとして、書面(ユニット新聞など)や家族が一堂に会する機会での報告などによる職員の紹介、異動・退職に関する情報提供に取り組まれることを期待します。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を開き職員の意見や提案を聞いており、改善すべきは適宜改善しております。当日参加できない職員に関してはあらかじめ意見を聞いておき、議事録を通して全員で情報共有が出来るようにしております。	職員会議では、環境整備や業務改善に関する提案や要望などについて活発な意見交換が行われています。また、相談や個人の希望などについては、日常的に管理者が話を聴いて対応されています。年に2度の管理者との個人面談も意見を受け取る機会として活用されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを用い、半期に1度目標の設定・見直しを行っている。そこで管理者と面談を行い、自己評価と照らし合わせたくえで、職員一人ひとりと管理者側の意見のすり合わせを行っています。昇給は年一度春の査定で決定、労働時間等契約事項に関しては状況に応じて適宜考慮し必要であれば変更しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女、年齢に関係なく募集・採用しております。募集・採用に関しては法人側が統括しており、その時々的人员配置状況に応じて所属を決定しております。所属の決定に関しては現場管理者の意見も考慮されております。経歴・職歴また保有する資格をかんがみ、業務を分配し、各人の能力が發揮できるよう努めております。	職員採用は、経験よりもやる気を重視されています。出産前後の休暇や育児休暇、家庭内での介護のための休暇等も取れるように体制を整えられています。また、研修などへは正規・非正規問わず、希望すれば受講できるように支援されています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者権利擁護の研修に参加させたほか、伝達講習の実施で職員全体への周知徹底を図っております。	権利擁護のほかに接遇マナーの研修なども行われています。利用者への対応で、職員の言動に気になる点が見受けられた際には、適切なサービスが提供できるように管理者による指導が行われています。また、職員間でも言葉遣い等に注意するよう促されています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加をさせるようにしています。また法人の院内研修や施設内の研修を年間を通して行い職員の資質向上に努めております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に登録し研修会や交流会の場へ参加しております。他事業所の運営推進会議への参加もしていましたが、この半年ほどはなかなか参加できないでおりますので、今後は積極的に参加し、他事業所との横のつながりを構築し、情報交換を通してサービス向上に努めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者だけに任せるのではなく、職員一人ひとりが細やかにアセスメントを取り、本人の意する事を引き出し、現状に則した、実現可能なものへと変え、ご利用者様の生きがいや安心につなげていっております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から時間をかけてこれまでの生活歴や暮らしの情報、悩みや相談を聞いております。また一度ではなく何度も重ねてヒヤリングし、ケアの参考にすることは勿論、ご家族様の満足や安心につなげるよう努力しております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は管理者と計画作成担当者が主に生活歴や現状についてのヒヤリングを行います。そこで今必要な支援を考えています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事を問題にするのではなく、その方が出来るような工夫をしよう！と常々スタッフには伝えております。そうすることで少しでも自立した生活をし、役割や生きがいをもった暮らしが出来るのでは、と考えています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちはあくまでも一職員でしかなく、ご家族の力にはやはり及びませんので、年に2回は家族会の意味も込めて忘年会と納涼会を開催しております。また外出レクやお誕生日会などには必ずご家族様にもお知らせし、ご参加を促す努力をしております。また認知症への理解を図る為にユニット新聞に認知症に関するコラムをはじめご家族様にも好評です。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別のレクを通して馴染みの場所、人との関係が途切れることがないように支援しております。具体的にはお墓参りや故郷への帰郷(大分県)、馴染みの神社への参拝など、ご本人やご家族様からの聞き取りを通して得た情報や希望から計画し、終了後は皆様とても喜ばれておりました。	一人ひとりの思い出を大切にされており、個別の行きたい場所への外出支援に取り組まれています。日常の利用者との何気ない会話の中で、馴染みの店や味、懐かしい思い出の場所などを拾い出し、馴染みの人や場との関係継続につなげられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションには必ず職員も参加し、声掛け気配り目配りし、皆様が参加し孤立することないようにしております。職員が楽しみ盛り上げることがご利用者様の満足につながると思っています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係は希薄なように思います。今後の課題です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が故、本人の思いを聞き出すことは難しい場合も多々ありますが、ご家族様からの聞き取りや日常の動作、生活歴などを鑑み本人様に寄り添う努力をしています。	利用者のその日の気分や体調を考慮し、本人の思いどおりの時間が過ごせるように支援されています。レクリエーションなどに無理に参加を促さないように配慮したり、利用者が欲しい物の希望を言われる時には職員が個別で買い物の同行援助をしたりしながら、利用者一人ひとりへの個別対応を心がけられています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントでは職員全員が個々が持っている情報を全部書き出し、それを基に担当を中心として全員でケアプラン作成をするようにしています。ご家族様への聞き取りも担当だけでなく、全員が行う仕組みにし、行った場合は詳細に記録し情報共有するよう努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や水分量、排泄の状況は詳細に記録しており、その都度NSIにも報告助言してもらい、健康管理をしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気付きを大切に、ケアプランに反映させております。ご本人はもちろん、ご家族様にも計画段階で必ず意見を聞き、反映させる努力をしております。私たちの努力で現状を打破できないか、という視点(特に排泄面)も大切にしています。	ケアプランの更新は基本的に3か月毎とされています。本人・家族の意向に加え、職員が日々の評価を行なった結果をもとに次のプランにつなげられています。作成の際には、カンファレンスで職員が気付いたことや必要と思われる提案を出し合い、利用者の状況に即したプランの作成に努められています。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録をするように職員には意識付けております。またご利用者様が発した言葉や態度を正確に記録するなど、客観的な記録を重視し、職員間で情報共有するようにしています。			
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご利用者様のご要望には出来る限り対応しようと日々頑張っております。ご家族様との毎日の交換ノートや帰宅支援、故郷への帰郷、お墓参りなど、ご本人様、ご家族様と一緒に計画立案し、実現させてきました。			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動や夏祭り、バザーなどでは地域の方々と交流はありますが、日常的な関わりはまだ希薄だと思います。			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院がある方に関しては受診のサポートをしております。他の方は千早クリニック往診にて日常のフォローをしています。	入居の際に利用者や家族の意向を聴き、以前からのかかりつけ医を希望される場合は、継続受診も可能とされています。同法人のクリニックより2週間に一度の往診が行われているほか、リハビリ機能も備えた近隣の協力医療機関には送迎サポートが行われています。また、各医療機関との良好な連携体制も構築されています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきがあれば看護師に相談し、必要と判断されれば受診の介助もしております。看護師の不在時は他の部署の看護師に依頼したり、電話連絡にて状態を報告しております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院ということもあり、入退時の情報交換はスムーズに行えております。また入院中はこまめに面会に行き、遠方のご家族様に状況を報告するなどしております。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	継続的な意思の確認が行えていません。また職員の研修も十分であるとはいえないので、今後の課題です。	これからの社会を取り巻く環境の変化も考慮し、終末期ケアに取り組むといった意向を持たれています。現在は、他の病院のターミナルケア勉強会へ参加するなど、終末期のあり方やケアの方法について学ばれています。	実際にホームで看取りを行っていないという状況もあり、ターミナル期に関する勉強会や研修が足りていないと考えられています。終末期や終末期ケアに関する職員の理解を深めるために定期的な勉強会に取り組まれることを期待します。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の研修を行ったほか、緊急連絡網は職員の異動などがあつた際はすぐに見直し、その際に職員に緊急時対応・応援要請などについて職員間で情報共有しております。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で防災訓練を行い、その際にはご利用者様にも実際に避難して頂き、訓練の為の訓練にならないようにしております。来年度からは地域の方とも合同で防災訓練を行う予定です。	定期的な避難訓練のほかにも、風水害や地震などに備えて施設内の避難経路や連絡体制の確認などが行われています。また、ハザードマップの掲示や非常食・飲料水の備蓄なども行われています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け・介助に努めております。また職員間でも利用者対応に関して指摘し合える職場環境であります。	日頃から利用者が心地よく感じる言葉遣いや対応を心がけられており、職員間でも相手に敬意を持って接するよう指導されています。利用者の以前のケアプランや個人情報に関する書類などは、ホーム内にある倉庫室に保管され、施錠管理が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選択・決定できるような声掛けをするよう、職員皆心がけております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて一日を組み立てるよう心がけております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが好きで毎日洋服を選んで着替えたいと仰る方には毎日職員と一緒に服を選び好きなお洋服を着ていただいております。またお化粧品や爪の手入れ、ハンドマッサージなども行い、喜ばれております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(盛り付けや配膳)や片付け(皿洗い)は出来る方に手伝っていただくようにしています。また行事等で手作りする時は材料を切って頂いたして、出来る限り参加していただくようにしております。	ホームで提供される食事は、栄養士が熱量や塩分を計算してバランス良く栄養が摂れるようにされています。冬至には、かぼちゃ料理・桃の節句にはちらし寿司など、旬の食材や季節の行事にちなんだ食事を提供することで利用者との会話も広がっています。また、利用者と一緒に料理やお菓子を作る機会も設けられています。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい方にはゼリーを作って提供したり、食が細い方には間食を用意し食べて頂いたりしております。また食事摂取量が減ってきている方に関しては献立ごとに摂取量を書くようにし、Drなど誰が見ても客観的に食事量が分かるよう記録しております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは欠かしません。まずはご自分で磨いて頂き、その後で職員が仕上げ磨きを行います。うがいが困難な方や舌磨きが必要な方にはスポンジブラシでのケアも行っております。また別府歯科往診も継続しております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムをつかみ本人様への声掛けを行う他、紙パンツから布パンツ+パットになるよう働きかけを行い、今年度は男性2名のオムツ・紙パンツはずしに成功しております。職員の努力とやる気の結果だと自負しております。	排泄の自立支援には特に力を入れられており、利用者それぞれの健康状態や状況に応じた排泄介助を行えるようカンファレンスでも話し合われています。ケアプランの中には、排泄関係の維持・向上を目指したプランが多く挙げられており、実際の効果も得られています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の管理を行い、便秘がちな方や既往歴上便秘が禁忌な方に適宜提供しております。また歩行訓練や体操など身体を動かし、自然な排便を促しております。看護師管理の下でヨービスなどの下剤を使用することもあります。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3~4回の入浴は欠かしていません。それくらい皆様入浴がお好きなので、入浴時間は大切にしています。また特に冬場は乾燥するので、保湿は欠かさず行っております。	浴室はエアコンを設置することで、他の空間と温度差が生じないように図られています。介護度が重度化し、浴槽に入ることが困難な利用者には、同じ建物内にある他事業所の特殊浴槽を利用し、安全に入浴頂けるように支援されています。冬に柚子湯を行うなど季節を感じて頂けるような工夫にも取り組まれています。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の夜間の睡眠状態や日中の状態を確認して適宜午睡を取り入れています。就寝時間についてもある程度のスケジュールはありますが、ご本人様の意思を尊重し、ご本人様が寝たい時に寝、起きたい時に起きるように職員は配慮しております。			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルで管理しており、適宜確認できるようにしています。また処方薬変更時には業務日報と口頭の申し送りにて伝達し、職員ひとりひとりがきちんと把握するよう努めております。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬりえやドリルなど、ご本人様の得意な事に沿ったレクの提供は毎朝行い、皆さま熱心に取り組んでおられます。飽きのこないようにレク素材も毎回検討し準備しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温にもよりますが、晴れた日にはなるべく戸外に出て、外気浴をするようにしております。また季節に合わせて外出レクも企画し、その際にはご家族様にも声掛けし、参加を募っております。また自宅で理髪店を営んでいるご利用者様は定期的に散髪と帰宅も兼ねて支援を継続しております。	普段から外出の機会を持ち、外気に触れたり、人と接したりする機会につながられています。近くの管崎宮での初詣や、ショッピングセンターでの買い物、フードコートでの外食などが行われており、全員一緒に外出が難しい場合は、日程をずらして全員が外出できるように工夫されています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	目標管理シートを用い、半期に1度目標の設定・見直しを行っている。そこで管理者と面談を行い、自己評価と照らし合わせたうえで、職員一人ひとりと管理者側の意見のすり合わせを行っています。昇給は年一度春の査定で決定、労働時間等契約事項に関しては状況に応じて適宜考慮し必要であれば変更しています。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙を書く援助も行っております。			
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をご利用者様と一緒に生け、廊下に飾っております。また大きく書いた壁掛けカレンダーも設置したり、空調には頼らず、日中は定期的な換気も兼ねて窓を開け、外気を感じていただいております。カーテンも開け、外光も取り入れて昼夜の区別も図っております。	ホームは建物の2階部分になりますが、リビングのベランダには観賞用の花が植えられています。花の苗は利用者にホームセンターで選んでもらい、花々の成長を一緒に楽しませています。ホーム内は清掃が行き届いており、歩行や車いすでの移動の際にも妨げるものがないように整理整頓されています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	9名といえども合う合わないがあるので、気の合う利用者様同士が会話を楽しんだり、馴染みの顔ぶれで食事が出来る様に、座席配置を考えております。それぞれが得意な事、好きなことができる時間も毎日作っております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の状態に合わせて私たちの介助(特に体交や移乗)の利便性を考えベットの配置などはレイアウトはしますが、それを除いてはご本人様ご家族様にお任せし、快適で居心地よいものにしてもらっています。	各居室には全てベランダがあり、クローゼットが備え付けられています。居室内への家具や仏壇、小物などの持ち込みは自由で、愛用品による過ごしやすい居室づくりが行われています。窓の開閉による換気や温度・湿度の調整は、職員により支援されています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに大きく名前を書いたり、目印をつけたりするなど、その方々に合わせた「わかる」工夫は常に試行錯誤しております。そのための個々人の評価は会議の際など、まめに皆で話し合い、共有するようにしております。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	トリテ独自の理念をフロア内に掲示し、理念の共有、実現に取り組んでいる。具体的には三位一体と掲げているので、公園清掃や地域行事参加等を通して理念の実践の場としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヵ月毎の運営推進会議の開催、地域行事(夏祭り、清掃活動)への参加。秋には地域とトリテでバザー、作品展示を行い地域との交流が増えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々へ対応事例紹介を行っている。また、地域行事を通して支援の方法を地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様やご家族からのご要望、また地域の自治会長、民生委員の方や他事業所の方などと意見交換を行ってきた。より有意義な会議とするため、併設の小規模多機能と合同で運営推進会議を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ地域包括支援センター、社会福祉協議会の担当者様に参加頂いている。市が開催している研修には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針である。身体拘束防止マニュアルをすでに改訂し、本年度も、職員へ周知する為に施設内研修を行う。事故防止・身体拘束委員会は毎月開催しており、事例検討を行い充実を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃からご利用者様の身体変化、精神心理変化に注意している。看護職との連携を密に図り迅速な対応に備えている。市が開催する研修にも積極的に参加し、一層の虐待防止の徹底に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度を実際にご利用者が活用している。また、制度紹介のパンフレットを準備し、玄関に設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にかかる費用や毎月の費用は料金表を用いて説明。オムツ代や病院受診等の別途必要な費用についても説明を行っている。場合によっては、こちらから提案させて頂くなど、配慮に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望、意見等は業務日誌等を通して申し送りを行い、職員間で話し合い、反映させるよう、努めている。家族面会時には声かけ・挨拶を通して意見や要望を出しやすい雰囲気づくりを心掛けている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議で職員の意見、提案を聴く機会を設けている。また、業務日誌に連絡・相談事項を設けて文書での意見を聴くようにしている。その他、定期的に声掛けを行い意見を聴くように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「目標管理シート」を用い、職員一人ひとりが目標をもち、実現できるように支援している。定期的に面談を行い、職員の希望や提案を聞くようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は男女とも就業し、年齢層も幅広い。性別や年齢による差別がないよう、むしろ互いに補完・助け合いながらご入所様に満足いただけるサービスの提供に努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の各種研修の折に、人権の重要性とプライバシー保護については確認している。さらに、人権教育・啓発活動の充実を図るよう、その具体化に取り組んでいくようにしている。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修、法人内の院内研修への積極的な参加を促している。また、本年は施設内研修に取り組んできた。本年の実績と反省に立ち、さらに職員の資質向上に努める。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ登録し、他事業所との意見交換の場に参加している。職員の参加も促進していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当制をとり、日頃からのコミュニケーションに“笑顔で”をモットーにしている。何より、安心して和やかな日常を過ごしていただけることに全職員のチームで取り組んでいる。計画作成担当者は必要に応じて、担当者とともに本人からの情報収集にあたっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当制を活かし、家族面会の対応などに第一義的対応をしている。そのためにも、ご家族に対する挨拶、電話での対応などに心を砕けるチーム作りに努めている。計画作成担当者は必要があれば、担当者と一緒に家族の声を聴くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集後はアセスメントを行うが、素案を提示の上で、職員間で話し合い優先すべきサービスを決定し、ケアプランに反映する。本人・家族の納得を得て、サービス提供を行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身状態にもよるが、食事の準備、居室の清掃、洗濯物をたたんでいただくなど、一方向の関係でない共助の関係を築くように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には挨拶・声掛けを行い、現在の心身状況などをお伝えしている。また、行事には案内・声かけを行い、家族との絆を重んじている。必要に応じて、家族へ依頼し、本人と家族との時間作りをサポートしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から聴取したことや、家族からの情報をもとに、本人にとって馴染の場所を訪問したり、自宅への外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、レクリエーション等には声掛けを行っている。必要に応じて職員が介入することがあるが、お互いがすきなことを言え、笑いあえる雰囲気作りをしている。場合によっては一人で過ごす時間が必要な方がいるが、こまめな声掛けを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に立ち寄れるように声掛けを行っている。利用終了となっても本人や家族の経過を確認し相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や暮らし方の希望を聞き取り、ケアプランへ反映させている。困難な場合は家族からの聞き取りと職員で本人が何を望んでいるかを話し合い、その人らしい暮らしの実現へ取り組んでいる。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり生活歴を本人や家族へ聴衆し、フェイスシート、アセスメントシートに記載して情報の共有化を図っている。何気ない会話からでも利用者を知る為に工夫している。また、利用者担当を配置し、より詳しい情報収集に努め、その人らしい暮らしを過ごせて頂けるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル確認や食事量、利用者の表情や言動などから心身の変化を逃さないように努めている。何気ない気づきを職員全員で共有できるようスタッフ間の声掛けができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が何を望んでいるか、必要な支援は何かを明確にするために計画作成時にはチーム内で話し合いを行っている。また、家族の要望があればそれもカンファレンスであげ、チーム内でディスカッションしている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録するために、利用者の長期計画は何かを把握し、それに対しての気づきを記録をしている。職員間ではミーティング以外でもこまめに話し合い、業務日誌、個別記録で情報共有を図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からのニーズに対してはできる限り柔軟に対応するように努めている。ご自宅への外出支援、受診支援などを行っている。職員間ではニーズに対してどこまでできるかを話し合い、実現可能な範囲で本人や家族のサポートを心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への清掃活動や夏祭りへの参加、地域と施設との共同バザー開催、作品展示など地域資源、施設の資源を探りながら利用者が地域の一員であることへの支援が形になり始めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度かかりつけ医の往診がある。それ以外にも、法人母体の病院であるため受診の必要性を施設看護師と確認し、適切な医療を受ける体制を整えている。本人、家族の希望も大切に、施設としても家族の希望が無い場合でも必要性が認められれば、その旨を家族へ伝え、受診の手配を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者への気づきを細かく看護師へ報告、相談している。報告を受けた看護師は利用者の状態を確認し、適切な医療サービスが受けることができる体制をとっている。これら一連の過程は業務日誌、個別記録へ残すことで情報共有をしている。また、看護師不在時は電話連絡で状態を報告し適切なサービスが受けられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時は病院関係者、担当医や看護師等と情報交換を行っている。入院中はこまめに面会へ行き、状態の確認を行う。退院がきまれば、退院前の情報収集を行う為に、家族、担当医、看護師等とカンファレンスを行い退院後に適切な支援ができるように努めている。入院者がいない場合でも、病院へ出向き看護師や連携室担当者とは情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期を希望されている利用者がある。要望に沿えるような体制を整備している段階である。当施設での看取り事例がないため、他事業所などの実践例を学ばせて頂いている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設後に1次救命処置の研修を行った。法人内での救命処置研修などにも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年2回防災訓練を行い、年1回は夜間想定で実施している。AEDも設置、緊急時食料備蓄は地域住民分も含めて100名規模で備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け、介助に努めている。利用者ごとの状態を把握して、適切な声掛けを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が選択、決定を行えるよう声掛けをしている。好きなことを言える雰囲気作りをしており、一方的な支援ではなく利用者が望み、決定できるような支援を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で行うことを決めてはいるものの、本人の意思を優先する声掛けを行っており、尊重するように努めている。何をしたいか、何を食べたいかなど要望を聞き、出来るだけ希望に沿うような支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧したい方は化粧して頂き、洋服を買いに行きたい方は買い物支援を行っている。女性の方はネイルをする方もいる。男性の方は髭剃り、鼻毛のカットを行っている。月に1回訪問理美容があり、カラーやパーマなどは利用者希望で行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは利用者の残存能力を活かし職員と一緒にやっている。定期的手作り料理を設け、準備、下ごしらえを手伝ってもらっている。職員も利用者と同じ物を同じ食卓で食事している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から配食は栄養バランスがとれている。食べる量は利用者によって変えている。嚥下能力に合わせ、刻み食、おかゆ、とろみなども提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。特に介入が必要な方は職員が支援するが、できる場所は本人で行って頂いている。定期的に歯科往診があり、清潔保持、口腔内の機能維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが分るように排泄チェック表で管理している。排泄リズムから本人への声掛けを行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の管理を行い、必要に応じてはぶ茶を提供している。歩行や朝の運動を奨励し、自然な排便となるよう取り組んでいる。また、看護師管理のもとでラキソベロンやヨーピスなどを使用する場合がある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね週3回程度入浴を行っている。拒む方は時間を変更して対応している。お風呂が好きな方が多いので、出来る限り希望に沿うように努めている。昼から夕方にかけて入浴をして頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々によって変化するので、昼寝は自由にして頂いている。必要に応じて、自室で休んで頂いている。夜間は、できるだけゆっくり安心して休めるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報をまとめており、薬の目的や副作用が分かる状態である。処方変更等は業務日誌やケース記録を通して情報伝達し職員全員が変化の確認が出来るように心がけている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの出来ること、好き嫌いが異なるので評価を行い、本人がしたいことを頂くような声掛けをしている。プランターの手入れや水やり、居室掃除、色塗りなど何かしら役割をもって頂き、利用者デマンドに応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体的な外出や個別外出支援を行っている。天候や利用者の体調に合わせ、玄関前や近隣公園へ散歩を行っている。希望当日に外出できないこともあるが、利用者要望をきき、本人と職員が話しながら日程を決めて買い物へ出かけている。家族と協力し自宅で散髪して頂く支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自己管理されている利用者もいたが、管理が困難場合、本人と家族から委任をもって管理している。本人の希望に応じて、自由に使うことができるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望に応じて、電話を使用して頂いている。手紙や年賀状のやり取りは大切な人との繋がりになるので、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の席を準備し、くつろいげるように工夫している。共用部の廊下や棚には季節を採り入れた花や飾りを用意し、利用者に季節を感じて頂けるようにしている。居室扉には分り易いようにお手製の名前を表示している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いは尊重されるように、声掛けを行っている。日によってのんびりしたい時はのんびりして頂けるような配慮をしている。気の合った利用者同士会話が弾むよう座席にも考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂けるよう家族に協力をお願いしている。本人が居心地よく安心して過ごして頂けるよう写真や家具、ソファなどを持ち込んで頂いている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることが異なるので、評価を行ったうえで、利用者にして頂くこと、職員が支援することを分けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		